1.件名:原子力エネルギー協議会との面談

2. 日時:令和2年12月4日(金)11:00~12:00

3.場所:原子力規制庁8階会議室

## 4. 出席者:

原子力規制庁 原子力規制部原子力規制企画課 森下課長 技術基盤グループ技術基盤課 佐々木企画調整官 技術基盤グループシステム安全研究部門 小嶋上席技術研究調査 官

原子力エネルギー協議会(以下「ATENA」という。) 事務局長、他5名(テレビ会議システムによる出席)

## 5.要旨:

OATENAから、確率論的破壊力学を用いた原子炉圧力容器の検査程度の見直しに関する取組について、準備ができ次第検討状況を説明する予定である旨説明を受けた。

経緯:事業者から、第5回 新規制要求に関する事業者意見の聴取に係る会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度)(平成30年12月13日)において、原子炉圧力容器の一般部の試験程度について確率論的破壊力学を用いてリスクを評価し検査に反映する取組が紹介され、原子力規制委員会は、第11回原子力規制委員会(令和元年6月5日)において、確率論的破壊力学評価等による事業者の被ばく線量の低減に向けた検査内容の変更の申し出については、その技術的妥当性の評価を優先的に行うこととするとした。

- OATENAから、原子力規制庁が依頼した国内の事業者が実施している非常用ディーゼル発電機の試験時間等について、調査に着手した旨説明があった。
- ○ATENAから、令和3年度計画策定のための審査実績を踏まえた規制基準等の記載の 具体化・表現の改善に係る意見聴取会については、会合による意見表明は行わず面 談において文書で意見表明することを検討している旨説明があった。
- 〇ATENA から、令和 3 年度計画策定のための民間規格の技術評価の優先順位に関する 意見聴取会について、第 6 1 回原子力関連学協会規格類協議会(令和 2 年 1 0 月 2 日)において提示した資料をもとに、準備を進めている旨説明があった。

## 6.配付資料:

なし